

令和7年第1回 魚津市教育振興基本計画策定委員会会議録

1 開催日時及び場所

令和7年8月4日（月） 場所 第一分庁舎会議室
午後3時00分～午後5時00分

2 出席者

委員 10名

出席委員 辻井会長、鍋島副会長、石川委員、臼井委員、岡本委員、新村委員、
廣瀬委員、本田委員、宮口委員、森田委員

欠席委員 新田委員

事務局 9名

教育長、事務局長、教育総務課長、生涯学習スポーツ課長、こども課長、
教育総務課総務係長、教育総務課学校教育係長、教育総務課総務係主査、
教育総務課学校教育係主査

3 傍聴人 1名

4 開会

5 教育長挨拶

6 委員及び事務局紹介・会長選出

会長に、辻井満雄氏（富山国際大学 名誉教授）が選出される。

7 会長挨拶

教育は、未来を担う子どもたち、またすべての人を育む貴重で重要な基盤であると思っております。教育の充実は非常に重要な課題です。委員の皆様の貴重な経験と知識に基づき、ご意見をいただきながら、策定委員会を進めて参りたいと思います。

どうぞ、ご協力をよろしくお願い致します。

8 副会長選出

会長が鍋島正茂氏（中学校校長会会長）を指名し、承認される。

9 諮問

諮問書を教育長から会長へ手交する。 《別紙資料1》

10 策定委員会の公開について

会議の公開について説明

- ・策定委員会開催後、市ホームページ等において、出席委員氏名、会議録を公開
- ・議事内容の公開については、個人が特定できない方法により公開

11 議事

(1) 報告事項

- ・第3期魚津市教育振興基本計画の策定について（資料①）
- ・第2期魚津市教育振興基本計画の評価について（資料②）

会長	まず最初に議事の（1）報告事項「第3期魚津市教育振興基本計画の策定について」及び「第2期魚津市教育振興基本計画の評価」について、一括して事務局より説明をお願いいたします。
事務局	（資料に基づき説明）
会長	ただいまの説明について、ご質問やご意見のある方は挙手をお願いいたします。
委員	この計画は、誰に対して示している、読んで欲しい計画ですか。誰に対するメッセージが一番強いのか、それを最初に教えていただけますでしょうか。
事務局	魚津市民に向けての計画になります。周知が不十分で、説明不足の面もあり、課題であると考えております。
委員	教育振興基本計画をもって教育大綱に代えると冒頭に説明がありました。多くの自治体でもそのように扱っているとは思いますが、大綱だけ作ってる自治体もあるのではないですか。大綱はコンパクトで非常に重点が絞られているため、市民にとってこちらの方が分かりやすいのではないのでしょうか。計画を作ることには反対ではないのですが、力点を置くところを明確にした方が市民に伝わるのではないかと思います、いかがですか。
事務局	今回の計画に合わせて、概要版作成などにより、できるだけ市民の皆様に分りやすい取り組みをして参りたいと思っています。
教育長	教育全体の振興に関する総合的な施策の大綱、そしてその下に、いわゆる具体的な事業を体系化して施策に関する基本的な計画を定める、これが教育振興基本計画です。 これとは別に、社会情勢等の変化に柔軟に対応するため、教育委員会重点施策というものがありますが、市民の皆さんにより身近に教育について考えていただくためには、この重点施策をしっかりと公表するべきであると考えています。

	ご指摘のあった教育大綱については、コンパクトで分かりやすいと思います が、教育大綱を教育振興基本計画と位置づける形をとっている自治体もありま す。
委員	第2期計画の評価について、項目の大半が目標未達であるということに驚いて います。 理由の1つに目標値が少し高かったようだと先ほど説明がありましたが、1つ1 つ項目を見ると、目標を達成するための具体的な行動計画や方法が書かれていな いように拝見をしております。 例えば、電子黒板やタブレット等IT化を進めた場合に施策の数値目標は上が る可能性があるのか、行動計画によってはIT化にかかわらず、指標結果を達成 に近づけていくことができるのではないかなという疑問を感じました。 IT化を否定するものではないですが、IT化と並行して学校での児童生徒と のパーソナルなコミュニケーションや、教育委員会として学校への関わり方につ いて、具体的に新たに始める項目、始めることにより成果指標の何%のポイント を上げる可能性がある、そのような目標達成志向で進めていただくといいのかな と思いました。その点について質問をさせていただきたいと思います。
事務局	第3期計画において、具体的な施策については第5章で策定したいと考えてお ります。第2期計画では、先ほどご指摘いただきました具体的な記載が足りてい ない部分があったのかもしれません。本日は、第2期計画の現状と課題、そこか ら見えてくる骨子あたりまで議論いただき、次回委員会にて実際の具体的な施策 内容についての議論をお願いしたいと考えております。
委員	教育振興基本計画は広く市民に向けて開示をしPRをしていく、それに対して まだまだ不十分だと思います。これはこれで市民に示すとともに、むしろ生徒を 対象としたものが必要だと思います。施策目標を達成させていくために、この計 画の当事者である小学生、中学生向けのものを作っていただくと、1歩も2歩も 前に進むのではないかなと感じました。提案でございます。
事務局	できるだけそのような、観点も取り入れて行きたいと思います。
委員	施策の②数値目標項目として、「学力向上の取り組みの事業内容がよくわかると 答えた児童生徒の割合」に対する、今後の施策への展開について、「学習指導員に よる個別支援の充実」をあげています。この学習支援員の配置は工夫をされてき たところであり、現場でも非常に配慮をされていますが、現状、子どもたちの様 子・実態を見たときに、これ以上学習の個別化をしていくのはいかがであろうと 思うのです。 理由は、施策の②数値目標項目「不登校、児童生徒の出現率」とリンクさせたい と思います。第3期計画への施策の展開に、相談体制の充実を図っていくとあり ますが、実際に校内教育支援センターや、カウンセラーやソーシャルワーカー

一、生徒指導等の工夫により、相談体制の充実は各校でおそらく図られていると思います。しかし、子どもたちの様子を見ていて、これで止まっているのは改善にならないと思っています。

必要なのは、相談体制を充実させた上で、将来的に子どもたちが社会的自立に向けてどうしていくのかです。現状相談体制が充実して、悩みを受けとめてもらったり、今の自分を受けとめてもらっているという居場所づくりはできています。今後は、その居場所において自分が将来どんな自分を目指すのか、将来的にどんなふうになっていくのかを見据えた上で、個別にどんな支援をしていくか、自立に向けた支援が必要だと思います。

この不登校児童生徒の様子を見ますと、第1に、コミュニケーション能力でのつまずきが見られます。かつては、いじめなどの問題で不適を起こしてということも大きな要因として挙げられておりましたが、最近はそれよりもむしろ、本人の中の心理的な不安であるとか、読み取れない複雑な要因が背景にあります。

コミュニケーション能力の育成や話すこと、自分で正しく聞く、相手を理解しようとする、その人間関係形成能力みたいなところをしっかりと育成していく必要があると思います。

個別に個別にと支援員の配置をすることで、ずっとこのような一対一の関わりを通じて改善を図ろうというのではなく、仲間とどう関わりながら学びを深めるのか、全国的にも共同的な学習とか、対話的な学びと言われているのはそこだと思います。

力をつけていくときに人を配置し個別に個別にとしていくのではなく、やはり学習形態そのものの見直しも図っていかなくてはならないので、予算をつけて人を配置すれば解決するという問題ではないというところにシフトしていく必要があるのではないのではないかと思います。

委員 個別指導の場合は人数を増やす対応と分かりますが、集団の中での学びはどのような施策が考えられますか。

委員 課題発見・課題解決型学習、そこに集団での学び、関わり合いの重視等、学校現場がもっとイメージしやすいような、関わりを重視したいと分かるような施策にしていける必要があると思います。1人でも課題解決学習はできますが、それで取り残されてしまう子どもがいるのならば、大人を配置するのではなく、いずれ社会に出た時のために、分からなければ自分から相談をして解決していく力を小学校、中学校のうちに育むんだということを、もう少し明確に出したほうがいいのではないかと思います。

会長 例えば、先生方の小中連携の研究事業、あるいは県外研修に参加した回数や、研修の成果を子供たちに返す、このようにしたらこんな成果が出たなど、見える形にできれば面白いかなと思います。

委員 資料②の第2期計画の反省を含む第3期計画への施策の展開は誰が記載したの

	ですか。
事務局	教育委員会事務局で記載しました。
教育長	第3期に向けての具体的な施策についていろいろご意見いただいておりますが、第2期の振り返りとともに、第3期計画へは具体的に何をすべきか明記しないと意味がないと感じました。 特に未達成の学力向上については非常に重要な要素であり、現場を知っている方々に様子を聞き、次回は具体的にイメージできるような、少しでもよい記載にすべきかなと思いました。
委員	国の教育大綱など読んでおきますと、置いてけぼりにしない・ならない教育をしていくんだというようなことが書いてあります。もちろん学校ですから、学力向上、最低限の学力習得っていうのは必要です。 今回、甲子園初出場の未来富山の学生さんなどは、特にスポーツの分野に特化し、通信制高校の自由度の高さと専門機関による独自のカリキュラムにより、1日の多くを野球の練習に充てているんだろうなということは皆さんご承知のところだと思います。 学校ですので、勉強するのが基本ですが、子どもたちの人間形成を考えると、勉強ばかりではなく、こっちの方向で力を伸ばしてみたらどうだろう、そういう意味での特別枠というものがもしあるとすれば、やる気が出るのではないかと思います。それをオフィシャルに許容はできないのかも知れませんが、実態を考えたときに、伸び伸びした子どもたちに育ってもらうときは、そのような考え方もあるのではないかと思います。
委員	子どもたちを目の前にしていると、本当にそれを実感します。難なく100点取る子もいれば、支援員さんが横について教えても、100点取るのが困難な子もいます。 それがダメなことではありません。100点を取らせるための日常ではなく、例えば仲間と、自分が分からないことについて話をして、到達目標が10であったとして、この10まで到達しなくても、「友達が言ったこのことは分かった」としたら、その子は自分の存在を感じられます。 そういう子どもは、例えばテストが40点、30点でも全然くすんで見えないのです。生き生きして、その子がいることによって、グループワークが楽しいものになります。これは小学校での発達段階の話で、中学校の発達段階だと違いはあるとは思いますが。 今、国では、多様な学びの場という言い方をします。集団の中で、黒板の字を見るのは苦しくて、書くのが苦しくてという時は、校内すまいるで自分の苦しい気持ちをクールダウンさせながら自分が必要なものを勉強し、教室に戻れる時に戻ってというような。家にいるのではなく学校に行って、友達と遊ぶのは楽しいけれど、こういう場面では校内すまいるへ行くという、心が少し開放されるんだという。そのような生き方を学ぶ、自己選択ができるイメージをもって現場で臨んでいます。

会長	学校現場についてたくさんお話が出ておりますが、スポーツ関係の方で何かご意見はありませんか
委員	スポーツに関しては、子どもたちよりも、親たちの考え方が変わっていると感じます。 世話が大変、子どもがスポ少に入ると自分の負担が増えるからさせたくないなど。また、地区の運動会についても、ほとんどの地区が半日での開催となっております。一旦、半日にしてしまうと、1日に戻ることはないでしょう。面倒なことはしたくない、そのような流れに時代がなってきました。
会長	他にご意見はありますか。
委員	毎年、市民文化祭がありますが、先生方のアンケートを取ると、大変だからということで、今年は小学生の参加がゼロなんです。来年度もゼロということになっていく可能性が高いと思われます。 特に思うのは地域の文化というか、祭り、芸術など、特に学校統廃合になってから、そういうものがなくなってきたということです。地域と学校とが一体となっていた部分が、学校統廃合された地域でだんだんなくなってきました。例えば獅子舞なども行えなくなってきました。地域の文化とどう繋がっていくかは文化協会としても考えていくべきかなと思っています。 子どもの作品展示は何とか行いたいと思っていましたが、やはり先生方も特別な時間を割いて教えるという形になってしまいます。地域の公民館活動としてやっておられるところもありますが、例えばじやんとこい魚津まつりのせりこみ蝶六のように、民間から指導してもらうなど、伝統芸能を残せるような形の検討が必要です。そうでないと祭りや地域の伝統芸能の部分がだんだん消えてしまっていくと感じています。 どこも少子化でなかなか続かないという事情がありますが、やっぱり少しでも何とか残していきたいというのは、文化協会としては今考えてるところです。
会長	他にご意見はありますか。
委員	地域との絡みというところでいくと、スポーツ文化ともに、親であったり、地域の方の理解は薄らいでいるというところで、一概に学校のせいではないんだろうなという感想をもちました。
会長	他にご意見はありませんか。
委員	今までの話を、目標が達成していない、不登校の子が多い、授業が分からない子が増えているなど、どちらかというとマイナスイメージで元気がない子が多いという印象で聞いていましたが、納得すれば動くというのが今の子どもたちではないかと思っています。例えば目標と、手法を子どもたちに示せたら、例えば目標が達成

すると、その先に何かいいことがある、目標に到達すればこういうことがあるから頑張ろうと動くのですが、ただ目標を作ったから頑張ろうというのでは、今の子どもたちは、情報の仕入れ方が上手なので、なかなか動かないと思っています。何かしら明るい未来を描いてあげれば、子どもたちも動いてくれるんじゃないか、そのように思います。

会長

他にご意見はありますか。

委員

保健医療系の仕事の関係で、小学校・中学校高校へお邪魔する機会があり感じることは、少し落ち着きがない、基本的な生活能力が身についていない子どもたちが多いのかなというイメージです。その辺を何とかしてあげたいと思うのですが、それは家庭の教育力なのかなと思っています。

それをもって自分自身だったり周りの友達を見たときに、今のお父さん、お母さん方がまず忙しい。仕事もしてるし、家のことも、楽しいこともしなくてはならなくて忙しい。そうすると、自分の生活に合わせて子どもを動かしてしまう。その辺に何か少し問題があるのかなと思うのです。

やはり忙しい自分が楽をしたいから、地域の行事はパスしたいというのは、自然の流れだと思います。

芸術的なところだと自然な流れに加えて、ひとり親家庭の増加など、いろんな事情があることなども絡んでいるのではないかと思います。

地域の獅子舞や、いろんな地域に根差した文化を継承していきたくても継承する人がいないというの、統廃合になってから特にというのはあるかもしれませんが、逆手にとって、広いエリアから人を集めていけたらいいのではと思います。

たてもんの引き手募集のような方向にシフトしていくのにも必要なかなと。男の子でなければ駄目というのも見直されてる行事などもありますから、柔軟に、続けるためには何ができるかも考えていく必要があると思いました。

会長

P T Aの学び、親学びは、地域を巻き込んでいけるといいですね。親学びによって、学習、生活習慣、さらに祭りや文化等、その辺のところを皆さんで考えていきたいなと思っています。

委員

親学びに10年ほど関わっていました。魚津はとても親学びが広まり、盛り上がってきています。特によつば小学校などで、参加していただいた人たちが、良かった、悩んでいたのは自分だけではないんだというところが分かっていたように。そういう人を増やしていけたら親の輪が広がり、行事などに一緒に行ってみようなどと盛り上がっていけばいいなと思っています。

会長

そういう取り組みを計画の中に入れて宣伝できたらいいですね。

委員

親学びに参加された親御さんは、子どもがいることで自分も育ってるっておっしゃっていました。子育てに精一杯で、子どもの行動の方が先で、親が後から追いか

けるような構図になっていたけれども、親学びに来て親同士で話す、もちろん教員も入りいろいろ話すことによってゆとりが出てくるので、親御さんの方から、先生、それは家ですることですよねというような言葉が出てくるんです。家庭教育と学校教育と社会教育のような、みんながそれぞれの役割をちゃんと担って子どもを育てるっていうコミュニティが、まちづくりが進んでいけば、自ずと子どもたちは豊かになってくると理想です。

(2) 協議事項

・魚津市の教育の現状と課題について（資料③）

会長	それでは次に議事の（２）協議事項「魚津市の教育の現状と課題」について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	（資料に基づき説明）
会長	ただいまの説明について、ご質問やご意見のある方は挙手をお願いいたします。 またご意見がありましたら、後ほどいただければと思います。

・魚津市教育振興基本計画骨子（案）について（資料④）

会長	次に、「魚津市教育振興基本計画骨子（案）」について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	（資料に基づき説明）
会長	ただいまの説明について、ご質問やご意見がありましたらお願いいたします。
委員	第２章で、第２期計画では「学校規模適正化の推進」としているところ、第３期では「教育環境の整備」となっていますが、道下小学校の児童数が増えて、経田小も横ばいの中、統合が先延ばしになりそうであると。大きなお金がかかるので、その分、体育館のエアコンであったり、そちらの方にお金を持ってくのかなと捉えたのですが、学校の老朽化の問題もありますから。老朽化している経田小や、清流小学校がどうなるのか、お金だけの話になりがちですけども何か方向性は決まっているのですか。
事務局	これに関しては、次の議題のその他の「学校教育のあり方」のところで説明させていただきたいと思います。学校規模適正化の状況に触れながら記述したいと考えています。
委員	基本目標のところでは第１期、第２期には「生涯学習」とありますが、第３期で消えています。人生１００年時代になってるのに、すごく不自然じゃないですか。

文化芸術とスポーツで読み込めとちょっと無理があると思います。消した意図は何ですか。

事務局

これから生涯学習というのはさらに重要な要素なので、文化芸術とスポーツでトータルとしては生涯学習という、そういう考え方です。

具体的にはそういうふうに分けておりますけれど、言葉としてはやっぱり挙げておいたほうがよろしいとのことですので、そのように対応したいと思います。

12 その他

(1) 魚津市の学校教育のあり方について（資料⑤～⑦）

会長

それでは、魚津市の小中学校教育のあり方について事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料に基づき説明)

会長

ただいまの説明について、ご質問やご意見等ありましたらお願いします。

委員

学校教育のあり方検討の必要性について、問題提起で終わるということですか、具体的な方法を何かお示しになるのですか。

事務局

今回、問題提起のような資料をお示ししておりますが、第3期の計画を策定する中で、ある程度の方向性を提示する必要があると考えています。

委員

案は、いつお示しになるんですか。

事務局

今回お示ししておりませんが、次回あたりに、委員の皆様からのご意見をいただいた上で、調整をしていきたいと考えております。

会長

他にご意見はありますか。

委員

学校教育関係者から選出された委員の1人として、意見を申し上げます。

やはり、この魚津市の教育振興のためには、教職員が安心して生き生きと働ける環境、さらに言えば心にゆとりを持って教員ならではの仕事にしっかりと取り組める、注力できる、そのような環境をつくる必要があると、委員の皆様方にもそういう視点を、ぜひ持って議論を進めていただければと思います。

今日お示しいただいたこの資料③の「学校の働き方改革」、資料④の「骨子(案)」の第3章、第5章にもございますが、今の学校の教職員のなり手不足というのは、皆さんも十分ご承知のことと思います。とかく、これまでいろいろなものを学校の教員が担いながらやってきた部分があります。中学校においては、部活動はもちろん、先日のじゃんとこい魚津まつりの、中学生せり込み蝶六踊りでも、教職員が何人も出ていました。

これから学校と地域が一体となって、学校教育のみならず、この魚津の子どもたちを育てて行く。学校の中に地域の教育支援、力をお借りして、地域の力を自力として、子どもたちも地域の若き担い手として、地域の活力となるようなそういった仕組みというものが今後本当に必要だと思っています。

やはりそういう意味でのこのコミュニティ・スクール、部活動の地域展開等も含めて、生涯学習、生涯スポーツ、また芸術文化含め多岐にわたり活発にしていくな必要があると、学校教育関係者の委員として強く感じました。

先ほどご意見がありましたが、やはりこの授業内容がよくわかると答えた児童生徒の割合などに関しての感想ですが、やはり事業形態の見直し、先生がいかにか上手に教えるかという、講義形式の授業ではなく、オンデマンドでの授業を十分行っております。もちろん教え込む必要もございしますが、やはり子どもたちが自ら問いを立てて、対話や共同での気づきを見いだしていけば、何かわかったなという感じが増えていくのではと思います。それらも含めて、教職員が注力できるような環境がとても大事だなと思うとともに、学校の働き方改革の重要性を感じました。

(2) 今後のスケジュールについて

会長	今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いします。
事務局	(今後のスケジュールについて説明)
事務局	会議が開催されない期間中においても、委員の皆様へご意見を伺う必要がある場合は、メール等でやり取りをさせていただくこともあると考えておりますので、ご協力をお願いできればと思っております。
会長	それでは最後、その他について何かありますでしょうか。 (委員から通学路の除雪に関する意見及び要望あり。事務局で回答。)
会長	本日の議事を踏まえ、次回は魚津市の教育における基本理念・基本目標及び基本目標達成のための具体的な施策について協議していただきたいと考えております。 本日いただきましたご意見以外にも、今後ご意見やご質問がありましたら、事務局までお寄せください。 それではこれで第1回魚津市教育振興基本計画策定委員会を閉会したいと思います。皆様方、議事の進行にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。